

教員養成セミナー2月号
動画講義

12カ月完成
教職・一般教養トレーニング
合格PASSPORT

◆第5回◆教育心理
学習・記憶・動機づけ

講師：古川 聡

学習・記憶・動機づけの領域に関して

学習に関する問題の中で出題頻度が高い事項や人物は、

- ・ 学習理論とその提唱者

動機づけに関する問題の中で出題頻度が高い事項や人物は、

- ・ 内発的と外発的の動機づけとその変容

記憶に関する問題の中で出題頻度が高い事項や人物は、

- ・ エビングハウスの実験と記憶の分類

知能に関する問題の中で出題頻度が高い事項や人物は、

- ・ 個別式知能検査の特徴

問題例 1

学習理論（福井県 2021年度）

学習理論は、理論名、提唱者、具体的な実験方法の3つを必ずびつけておくことが必要です。問題例のキーワードをみると、

- ①条件反射、パブロフ
- ②ネコ、箱（問題箱）、オペラント条件づけ
- ③手段—目標、サイン・ゲシュタルト
- ④ケーラー、チンパンジー、洞察
- ⑤他者の行動、モデリング

→この中でキーワードの並びに誤りがあるのが②となる

学習理論の概要

強化の与え方	理論の種類	理論名	提唱者
直接強化	連合理論	古典的条件づけ	パブロフ
//	//	オペラント条件づけ	スキナー
//	//	試行錯誤説	ソーンダイク
//	認知理論	洞察説	ケーラー
//	//	サイン・ゲシュタルト説	トールマン
間接強化		社会的学習理論	バンデュラ

問題例2 ▶ 動機づけ（大阪府 2020年度）

問題文に整合性があるかどうか分かることがポイントです。

- ① 内発的動機づけに報酬は含まれません
 - ② 機能的自律は外発的動機づけから内発的動機づけへの移行
 - ③ 学習性無力感はやる気も学習の結果だと証明するもの
 - ④ アンダーマイニング現象は物的報酬で起こるもの
 - ⑤ エンハンスング効果は褒め言葉でやる気を高めるもの
- 整合性のある文章は2になります

動機づけの出題ポイント

外発的動機づけ 報酬や罰を与える、競争させるなど

外発的から内発的へ移行 → 機能的自律

内発的から外発的へ移行 → アンダーマイニング現象

内発的動機づけ 興味や関心や知的好奇心に訴えるなど

問題例3 ▶ 記憶の種類（奈良県 2021年度）

問題文に整合性があるかどうかの判断を求める問題

- A より大きなまとまり（チャンク）にする作業がチャンキング
- B リハーサルは復唱と訳され、事項を機械的に繰り返すのが維持リハーサル、心的操作を加えて効率よく繰り返すのが精緻化リハーサル
- C ワーキングメモリは、小説を読んだり、問題を解く時に必要となる一時的な記憶

記憶を分類すると

保持時間で分類 : 感覚記憶・短期記憶・長期記憶

→感覚記憶の中で視覚的なものはアイコニック・メモリ、
聴覚的なものはエコイック・メモリ

内容で分類 : エピソード記憶・意味記憶・手続的記憶

→タルヴィングの分類で、最初の2つは宣言的記憶であるのに
対して最後は非宣言的記憶とも呼ばれる

過去と未来で分類 : 回想的記憶・展望的記憶

問題例 4 ワーキングメモリ（宮崎県 2022年度）

やや専門的な用語が出てきた問題です。

バッドリーが1974年に著した論文で、ワーキングメモリのマルチコンポーネントモデルを提唱し、そこで出てくる用語です。

① 音韻ループ

心の中で反復して忘れないようにするための音韻を保持する

② 視・空間スケッチパッド

形や色などの視覚情報でイメージを作ったり空間的位置情報から認知地図を形成したりする働きを持つ

③ 処理資源

容量に相当するもので、訓練によって高めることができるとされる

問題例5 ▶ 知能の多重理論（宮崎県 2022年）

ガードナーが唱えた多重知能理論で考える8つの知能とは

- 言語的知能・・・文字や話し言葉による表現が得意
- 論理数学的知能・・・数学や科学など論理的に考えるのが得意
- 空間的知能・・・物事を3次元的にとらえるのが得意
- 身体運動的知能・・・スポーツや繊細な手先の作業が得意
- 音楽的知能・・・音楽の演奏や創作が得意
- 対人的知能・・・他者への共感が得意
- 個人的知能・・・自分のことを客観的に分析できている
- 博物学的知能・・・植物や動物に詳しい

問題例 6 知能検査（福井県 2020年度）

ビネー式とウェクスラー式の2種類の検査の内容比較をもとにした出題。

ア 英語に翻訳されたことで世界に広まった

イ AWISではなくWAIS

ウ 言葉で回答する問題が言語性、作業をするものが動作性

エ IQは平均が100であり、120ということは生活年齢より精神年齢が高くなければおかしい

オ 知能から推定される学力が得られていないので、アンダーアチーバー（学業不振）と判断される

ビネー式とウェクスラー式の比較

	ビネー式知能検査	ウェクスラー式知能検査
開発者	ビネー (フランス人)	ウェクスラー (アメリカ人)
問題の種類	1種類で対象者に合わせて問題を選別	幼児用のWPPSI、児童用のWISC、成人用のWAISをあらかじめ用意
結果の表示	知能指数	偏差知能指数
全体的特徴	全体的な知能の発達状況とその水準がわかる	知能の詳細な発達状況がわかるのでLDの鑑別診断にも活用されている